

## SD法による過疎イメージの分析

秋田高専 正員 折田 仁典  
秋田高専 学生員 ○備前 亨

### 1. はじめに

昭和40年代前半頃から社会問題化した過疎問題に対しては、今日までの約20年間にわたり諸々の対策が講じられてきた。しかしながら、充分な効果をあげるには至らず、全国総市町村3254のうち1158の市町村が過疎法の指定をうけている現状をみると、問題の複雑さ、解決の困難さがうかがえる。この問題は複雑な要因から構成されており、更に、これら要因は互いに負の要因として働き、地域イメージをも下降させている。このイメージの悪さは若者の地元からの流出、嫁ききん、果ては地域住民の「やる気」さえも欠如させ、地域の振興、活性化という面において、多大なるデメリットとなっている。本研究はこの過疎イメージの構造分析を行い、今後の過疎問題対策の一指針を与えるとするものである。

### 2. 解析手法および調査

景観、イメージ研究などが解析対象とする心理的空间には「知覚空間」と「印象空間」とがある。本研究で取り扱う「空間」は、過疎地域で生活する人々が自らの地域についてどのようなイメージを持っているかを分析することにより過疎イメージを把握しようとするものであるから、視覚的に捉える「知覚空間」ではなく、人間の記憶、印象から形成される空間、すなわち「印象空間」である。この過疎イメージの分析には言語心理学の分野でオズグットが考案し、現在、景観の分析などに広く用いられているSD法 (Semantic Differential Method) を適用した。調査は昭和62年12月に実施した。調査対象とした過疎地域は秋田県東成瀬村および増田町の2地域である。これら2地域は著者らの研究から、前者は「閉鎖型過疎地域」、後者は「地域間接続型過疎地域」として分類されており、その地域特性は異なる。しかしながら、両地域ともに「過疎法」の指定を受け、人口減少に伴う諸問題の解決が大きな課題である点では共通性を持っている。

### 3. 過疎イメージの評価尺度

過疎イメージの評価尺度の設定およびコンセプトの確定のため、本調査を実施する前に、いくつかの過疎地域において過疎問題に関するヒヤリングを行った。解析にはKJ法を用い、過疎イメージを創造することに深い関係を持つと思われる次の7つのコンセプトが確定した。すなわち、(1) 公共、生活施設 (2) 公共交通機関 (3) 産業 (4) 人間性 (5) 自然環境 (6) 道路施設 (7) 地域の中心地(商店街)である。次に、これらのコンセプトに対して形容詞対を作成した。作成ではまず既存の研究、過疎地域でのヒヤリング調査等から100対の形容詞を選び出し、これを50名の被験者に対して、対極性確認調査を実施した。ここで、形容詞間の類似性、形容詞のもつ意味などからも検討を加え、できるだけ価値判断を含む形容詞対を選定した。各コンセプトに共通した12の形容詞対を設け、更にそれぞれのコンセプトに特に関係のあると思われる形容詞対を3~7個付加した。これは、各コンセプト固有のイメージを知ると同時に、それらのコンセプト全体から形成される過疎のイメージをも分析しようとするためである。評価尺度は、「非常に」、「かなり」、「やや」、「どちらともいえない」の7段階とした。(図-1参照) なお、单刀直入に「地域全体のイメージは?」という質問も付加しておいた。また、諸々の過疎問題と過疎のイメージとの関係を分析するため、ヒヤリング調査から図-2に示すような24項目の問題を抽出、設定した。

### 4. 分析結果

#### 4. 1 過疎のイメージ

2地域別に各コンセプトについて分析を行なったところ、2地域で若干の差異はみられたが、ほぼ同じような傾向を示した。各コンセプトと関係が深い形容詞対を評定スコアの平均値を用いて検討したところ次のようであった。すなわち、「公共、生活施設」→「不便な」、「公共交通」→「不便な」、「

産業」→「テンポが遅い」、「人間性」→「親しみやすい」、「道路施設」→「テンポが遅い」、「中心地」→「テンポが遅い」、などとなって いる。各コンセプトに共通した形容詞対として は「不便な」、「テンポが遅い」、「保守的な」などが挙げられる。

図-1は「地域全体のイメージ」を19対の形容 詞対を用い、自分の住んでいる地域の過疎認識 度合別に分析した結果である。これをみると、 「非常に過疎だと思う」グループの各形容詞対 に対する評価尺度の値は、他の「かなり過疎だ と思う」、「やや過疎だと思う」グループに比 べて高く、「テンポが遅い」、「不便な」、「老けた」、「さみしい」、「暗い」の形容詞対 で顕著である。このことから「過疎イメージ」 はこれらの言葉で表現されるといえる。

#### 4. 2 過疎問題と過疎 イメージ

具体的に起こっている 過疎問題と過疎イメージ との関係を分析した。 図-2はその結果である。 これをみると、「過疎イ メージ」形成に結びつき が深いのは「雇用の問題」 「所得の問題」、「嫁き きん」、「教育問題」、 「医療施設の未整備」等 であり、「伝統行事の休 廃止」、「田、畑、山林 の管理」等の問題は「過 疎イメージ」とはあまり 結びついていないようだ ある。

#### 5.まとめ

本研究は印象空間とし ての「過疎イメージ」を分析したものであるが、分析からはいくつかの興味ある結果が得られた。今後は、 過疎問題とイメージとの関係をさらに詳しく分析するつもりである。

(参考文献)

岩下 豊彦：SD法によるイメージの測定、川島清店  
水村 宜幸：「地方都市」に対する市民イメージの構造化について、都市計画学会学術研究論文集 第22号 P.277-288

	非	か	や	ど	や	か	非
	常	な	ちい	な	か	常	
	に	り	らえ	と	り	に	
1.親しみやすい	ト---	+	-	+	-	+	親しみにくい
2.安らぎがある	ト---	+	-	-	-	+	安らぎがない
3.にぎやかな	ト---	+	-	-	-	+	さみしい
4.豊かな	ト---	+	-	-	-	+	貧しい
5.魅力的な	ト---	+	-	-	-	+	魅力のない
6.明るい	ト---	+	-	-	-	+	暗い
7.若々しい	ト---	+	-	-	-	+	老けた
8.安定した	ト---	+	-	-	-	+	不安定な
9.まとまりのある	ト---	+	-	-	-	+	まとまりのない
10.誇りに思う	ト---	+	-	-	-	+	誇りに思わない
11.のびのびした	ト---	+	-	-	-	+	きゅうくつな
12.積極的な	ト---	+	-	-	-	+	消極的な
13.生き生きした	ト---	+	-	-	-	+	生氣のない
14.特色がある	ト---	+	-	-	-	+	ありきたりな
15.テンポがはやい	ト---	+	-	-	-	+	テンポがおそい
16.進歩的	ト---	+	-	-	-	+	保守的な
17.便利な	ト---	+	-	-	-	+	不便な
18.快適な	ト---	+	-	-	-	+	不快な
19.好き	ト---	+	-	-	-	+	きらい

図-1 過疎イメージの分析結果

非常に過疎だと思う：  
かなり過疎だと思う：  
やや過疎だと思う：

過疎との結び付きの強度

0 1 2 3

- 1.出稼ぎに行かなければ生活に支障が出る
- 2.働き口が少なく職業が自由に選べない
- 3.誘致企業の整備が遅れている
- 4.所得が低い
- 5.手をかけられない田、畑、山林が出ている
- 6.減反政策、米価などの問題により農業をやる気が薄れる
- 7.町(村)民体育館、運動広場、公民館などの整備が遅れる
- 8.医療施設の整備が遅れている
- 9.観光、レジャー産業の開発が遅れている
- 10.上、下水道の未整備、ごみ処理の問題など生活環境問題がある
- 11.最寄りの都市の整備が遅れている
- 12.町(村)内の道路の整備が遅れている
- 13.バス、鉄道等の運行本数が少ない
- 14.道路の除雪が完全実施でないため交通に支障がある
- 15.高速道路、新幹線鉄道等の整備が遅れている
- 16.住民の定住意識の変化
- 17.嫁が来ないので未婚男性が多い
- 18.高齢者の生活維持の問題
- 19.学校の統合、高等教育機関への進学の不便さなどの教育問題がある
- 20.日用品の買物等が不便である
- 21.消防活動や共同奉仕活動(道ぶしん等)への支障がある
- 22.お祭りなどの伝統行事の休止、廃止等が起こっている
- 23.雪下ろしの困難な世帯が出ている
- 24.情報化社会から取り残されている

図-2 過疎問題と過疎との結びつき

ての「過疎イメージ」を分析したものであるが、分析からはいくつかの興味ある結果が得られた。今後は、 過疎問題とイメージとの関係をさらに詳しく分析するつもりである。